

# TROMBONE

トロンボーン

## リップスラーで柔軟な演奏を

黒金寛行 くらがね・ひろゆき



- ◆出身 福島県立磐城高等学校 東京藝術大学
- ◆所属 NHK 交響楽団
- ◆趣味 世界の美酒めぐり
- ◆血液型 O型
- ◆星座 おうし座
- ◆読者にひとこと 楽しく、いい音楽しよう
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

みなさんこんにちは。毎日ロングトーンで音色を磨いていますか？ 今月のテーマは「リップスラー」。トロンボーンだけに限らず、金管楽器にとってとても重要な技術の1つです。唇を柔軟に使えるようにトレーニングすることで、難しいソパッセージの克服に役立つだけでなく、柔らかく余裕のある音色に近づけることができます。いろいろなパターンを、カラダに覚え込ませちゃいましょう。

### ■リップスラーとは……

倍音間をタンギングせずに、唇の張り具合と息のスピードや角度、舌の位置（要するに口の中の容積）などの調節で行き来すること。例えば、1ポジションだけでB $\flat$ -F-B $\flat$ という3つの音を出したいときに、【図1】のように区切らずに、【図2】のようにつなげて、滑らかに演奏しましょう、ってやつ。

### ■キレイなスラーをかけるコツ

◎まず口の中で舌がどのように動いているかを感じよう。低い音を出すときは舌が低い位置（オの発音に近いかな）、音程が高くなるにつれて舌の位置も上がっていきます。「オ→ア→ウ→エ→イ……」としゃべる感じ。もっと高い音を出したいときは「ヒー」って発音するといいかも。

◎舌の動きが感じられるようになると、唇も自然に動くのが分かるはず。高い音に向かって唇がピンと張った感じになります。

◎加えて、高い音に向かうにつれて、息のスピードを速くしてみよう。寒い日に「ハーッ」と手を温めるようなゆっくりとした息（低音）から、熱いラーメンを食べるときに麺を「フーッ」と冷ますときの

ような速い息（高音）を使って吹いてみよう【図3】。

◎低い音は息をまっすぐ前へ出し、高い音はマウスピースのカップの下のほうへ息を当てるイメージ【図4】。こんなことを気にしながら【譜例1】を練習してみよう。

### ■練習での注意点

音の変わり目が「ガクン、ガクン」と段々にならないように。最後の着地音も「ポヨエ〜」ってな恥ずかしい音にならないようにしっかりこらえて。必ず、7ポジションまで練習すること。遠くのポジションってとても演奏しづらいと思うけど、そこを近くのポジションで演奏しているかのようにキレイに演奏できると、実際に近くのポジションで演奏するときもとてもラクになります。

リップスラーの練習は、必ず遅いテンポから練習して徐々に速めていくこと。速く吹ければいいってもんでもなくて、それぞれのテンポに難しさがあります。少し難しめのものにもチャレンジしてみよう【譜例2】。

まあ、いきなりここまで難しくなくてもいいんだけどね……。

音の組み合わせは何通りでも作れます。日々のコンディションを確認するために「コレだけは必ず！」というパターンを持っておき、さらに週替わりなどで難しいパターンを1つクリアするってのも有効かな。

最後に、リップスラーがリップスラーのためだけの練習になってしまってもったいない。タンギングせずに、リップスラーだけで簡単な曲が吹ける、というものを練習してみよう【譜例3】。楽譜に書いてあるスラーの始点だけタンギングしてOK。他はスライディングとリップスラーのみで曲ができあがるはず。試してみてください！ それではまた来月！

